

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和5年10月

1 たんかんの生産性向上への歩みに一区切り！

10月3日から4日にかけて「奄美地域たんかん生産安定対策検討会」が奄美市で開催されました。県園芸振興協議会本部主催のもと、大島支部・徳之島支部・屋久島支部管内の生産者・関係者など60名を超える参加者が集結しました。室内・現地での検討を通して、たんかんの低収・隔年結果是正に関する取組成果について活発な意見交換がなされ、作式、着果管理や肥培管理等の技術面や樹園地継承など総合的なテーマに引き続き取り組む方針を全体で共有・確認しました。



室内検討



現地検討①



現地検討②

2 大島地域の食育・地産地消について語り合う

10月17日、奄美市で「大島地域食育地産地消推進研修会」を大島地域かごしまの“食”交流推進協議会の主催で開催し、関係機関・団体から約80名が参加しました。奄美市名瀬の郷土料理店の店主、患上イサ子氏を講師に迎え、「地場産農産物の安定供給と島内消費の向上」をテーマとしたフロアセッションを実施しました。農林水産業の現状と地産地消推進の課題などについて意見交換を展開し、関係機関・団体が連携して地産地消を推進していくことを確認しました。



講演「つなごう奄美の食」



フロアセッション

3 喜界町の若手かぼちゃ農家へのカウンセリングの実施

10月16～23日に、喜界町の若手かぼちゃ農家5戸と、過去の農協出荷実績や、今期の栽培計画及び目標粗収益等について検討するカウンセリングを実施しました。農家からは、出荷実績の反省や他の農家の実績と比較することで、自分の状況を把握できたとの意見があり、関係機関からは、じっくり語り合うことで、農家の細かい工夫や対策について意見交換ができ、状況把握もできたとの意見が聞かれました。農家、関係機関共に好評であったことから、次年度以降も実施することとなりました。



かぼちゃカウンセリング

4 喜界町ごま生産振興協議会が設立

10月2日、喜界町において生産・集荷・加工等の8団体・組織と関係機関で、「喜界町ごま生産振興協議会」の設立総会を開催しました。喜界町は国産白ごま65%の産地でありながら、生産・集荷・加工等の組織がなく、生産振興に関する推進体制が取れていませんでしたが、組織化に向けたアンケートや検討会を重ね、関係者の意識を変えることによって組織化が実現しました。今後は、栽培技術や規格品質の統一、品種の選抜等、ごまの生産振興に向けた活動を行っていきます。



ごま生産振興協議会設立総会